11月25日（金）14:45~16:15 GP リーダーシップ教育班　議事録

（参加者：岡野、豊田、横井）

1. 目的

中間発表での指摘の振り返りと今後の方向性についての話し合い

1. 中間発表での指摘
* リーダーとなる人は少数なのに「全員」に対して必要とはどういうこと？
* 主体性のある/なしをどう決めるのか、評価の仕方
* 主体性の定義は？
1. 問題意識を確認してみる

「社会的要請に応えるためリーダーシップは必要と言われるが、現在学校で行われていることものは効果があるのか？という疑問と、外部のリーダーシップ育成の取り組みはもともと興味のある人のみが受けているので効果があるのか。」

…ここから、議論を進めたが、埒（ラチ）が明かないので方向を転換することにした。

1. 方向性の転換を提案
* リーダーシップをポジションとしてみる→「エリート教育」に着目してみることに。
* ここから考えられる暫定的な論の流れ

ポジションとしてのリーダーシップを発揮できる人たちが必要

（国家を担う政治家や企業人）

↓

リーダー（ポジション）につけるのは少数（選抜された人＝「エリート」）

↓

エリート教育とは何を目指しているものなのか、エリート教育によって体得されるべきものが何かを確認

今のところ、それを「知識と精神」とする

↓

日本のエリート教育を見てみる

日本はエリート教育に関心ない？

* 飛び級ない
* SGHやSSHという取り組み（牽引する人を育む）があるけど…

↓

日本は早い段階から選抜は行なっているのに、選抜された後のエリート育成環境が整っていない

（例）高校段階から入学試験によって選抜を行なっているが、高校入学後学力・偏差値を高めることが主目的となっており、エリート意識（精神面）の育成は軽視されている

↓

問題の設定：「日本のエリート教育は精神面の育成が不十分である。」

↓

今回のGPではこの問題の原因を探って、解決策は示唆の程度にとどめる

1. 今後の動き
* エリート教育とは何か。エリート教育で目指されるべきもの、体得されるべきものを明確にする
* 日本の「エリート教育」に対する立場と実践例